



# 宮城教育大学 ESD・RCEニュース



平成 24 年 11 月 6 日

## 第 2 2 号

宮城教育大学 ESD・RCE 推進会議から、学内外の ESD・RCE の取り組みやニュースをお知らせします。

### I. これまでの ESD 関連事業報告

#### 1. 「Rice プロジェクト」説明会 in 岡山（7月27日・土）

ユネスコスクールでのアジア地域での学校間交流を進めるために、ASPUnivNet（ユネスコスクール支援大学間ネットワーク）は、日本/ユネスコパートナーシップ事業「Rice プロジェクト」の説明会を岡山大学にて開催し、岡山県内を中心に約 50 名の教育関係者が参加した。説明会では、本学の川崎准教授が Rice プロジェクトの概要を述べ、Rice プロジェクトへの参加を呼び掛けた。岡山は、仙台と並んで ESD・RCE 活動の先進地域であり、Rice プロジェクトへの今後の積極的な参加が期待される。今後、金沢や東京でも、同様の Rice プロジェクト説明会が予定されている。



#### 2. オーストラリア大使館参事官来訪（8月7日・火）

オーストラリア大使館参事官カレン・サンダコック氏並びに、文部科学省大臣官房国際課日豪交流職員クリストファー・ローソン氏が、8月7日に宮教教育大学を訪問、見上学長らと懇談した。懇談では、国際交流担当の石澤総務担当理事、市瀬教授を交え、宮教大とオーストラリアの大学との交流の現状、オーストラリアの教員養成、交流を促進していく上での課題などについて活発な意見交換を行った。懇談後参事官は、「両者の交流がより一層促進されるよう支援していきたい」と述べ、今後の活発な交流が期待されている。



### 3. 宮城教育大学舞踊発表会～地域の伝統文化と教育～（9月15日・土）

若林区文化センターにて、「宮城教育大学舞踊発表会～地域の伝統文化と教育～」を開催した。この発表会は、地域の伝統文化（民俗芸能・舞踊）を教育に取り入れている学校が集まって、取組みについての実践内容と成果の発表（沖縄県恩納村立安富祖小中学校「琉球舞踊」、相馬市立磯部小学校「こきりこ」、石巻市立東浜小学校「獅子風流」、仙台市立鶴巻小学校「相馬かんちよろりん節」、聖和学園短期大学「秋田音頭」、尚絅学院大学「西馬音内盆踊り」、宮城教育大学・雅座「さんさ踊り」）をするものであり、文部科学省特別経費「東北の地域遺産を活用した地域と世界を結ぶ持続発展教育の推進」プロジェクトによって実施した。この活動を通して東日本大震災からの復興を祈願するとともに、持続可能な地域を創るという持続発展教育（ESD）の理念と、ユネスコの世界遺産・地域遺産教育の理念を今後も地域において推進していきたいと考えている。



### 4. 7th Global RCE Conference（9月21日・金～9月24日・月）

韓国統営（トンヨン）市にて、7th Global RCE Conference が開催された。この会議は年に一度、世界中の RCE（Regional Center of Expertise）が集まって行われる国際会議であり、今回の会議では世界各地からおよそ100名が参加、仙台広域圏 RCE（宮城教育大学が事務局）からは小金澤教授が出席した。期間中は、Teacher Education and Better Schools や Disaster Risk Reduction、Capacity Development など、約20もの分科会や大陸間ミーティングなどが開催された。また、23日（日）には、各 RCE の代表、統営市長、国連大学前学長、環境省環境教育推進室長、岡山市長らが一堂に会し、各 RCE の取組みの報告を行うとともに、RCE の在り方、今後の活動の進め方について議論が交わされた。2013年はケニアのナイロビ、ESD の10年最終年である2014年は岡山での開催が予定されている。

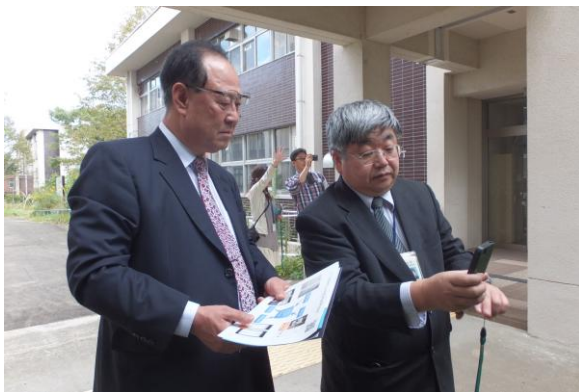




## 5. 大邱教育大学校総長が来訪、被災地を視察（10月17日・水）

今年度新たに大邱教育大学校総長となられた南承仁 氏、同大学校企画処長の孫ジャンホ 氏が、10月17日に本学へ来訪された。午前中は、「韓国の教育事情について」と題した南総長の講演が行われ、多数の教職員及び学生が参加、活発な質疑応答がなされた。また、孫処長からは、専門とされている大邱教育大学校におけるESDについて説明があった。

午後は学内見学及び被災地（荒浜小学校）の視察を行った。学内見学では環境教育実践研究センターの齊藤教授より、飼育しているヤギについて説明を受けた後、同センターの鶴川センター長より、ICT を活用した環境教育教材について説明があり、大きな関心を示されていた。また、被災地視察では、教育復興支援センターの伊藤特任教授、吉田特任教授からの説明に耳を傾けられ、初めて目の当たりにされた震災の現状に心を痛めている様子であった。



## 6. 日中韓環境教育シンポジウム（10月24日・水）

ガーデンパレス仙台にて、環境省主催、仙台広域圏 ESD・RCE 運営委員会並びに宮城教育大学協力のもと、第13回日中韓環境教育シンポジウムが開催された。中国、韓国はもちろんのこと、日本国内も、北は東北、南は九州まで、多くの地域から参加があった。

内容としては、3カ国から各国におけるESDの現状について事例報告があった後、「『ESDの10年』最終年に向けて日中韓ができること」と題したパネルディスカッションが行われ、フロアも交えて活発な意見交換が行われた。最後に、「ESD と被災地の支援のネットワーク～被災地の経験から～」と題し、本学の見上学長による特別講演が行われた。講演の中では、被災当時の状況から、ネットワークの活用、未来づくりプロジェクトの立ち上げ、ボランティアによる支援、教育復興支援センターの立ち上げ等について説明があり、ESD を介したネットワークの重要性を学長が力説されると、国内はもとより、国外からの参加者も大きく頷いていた。

